

日本キューバ連帯委員会・クバポン

FORCUBA



キューバ・青年の島 米自給支援プロジェクト

vol.3
2013年2月

el proyecto de la producción de arroz popular en el sector campesino de la Comunidad Japonesa en la Isla de la Juventud



キューバにコメを！

ひとりの青年がたどり着いたのは中米、キューバ。

100余年の歳月を超え、日本人入植者が果たせなかった思い

日本のこころと「米」がつなぐ熱い思いは運命に導かれ海を渡る。



PORCUBA

el proyecto de arroz en la Isla de la Juventud

米自給支援プロジェクト報告集 vol.3



2010年11月の第14回キューバ友好訪問団派遣の際、又市征治団長（参議院議員）が在キューバ日本国大使館で要請し具体化を始めた青年の島での稲作支援プロジェクトは、第15回友好訪問団（2011年11月実施）団長の吉田忠智参議院議員などの助力もあり、2012年2月1日、日本政府の「草の根無償協力」の協定書が結ばれ実施の運びとなりました。

ただ、このプロジェクトの実施スケジュールからすると機材等の搬入開始が2012年末から始まり、完了は2013年末ごろ完了とのことであったため、並行して現地滞在による技術指導支援を進めることにしていたCUBAPONは、2011年11月、青年の島のカウンターパートと以下のような取り決めを行いました。

- ①当面する物資支援として「給排水ポンプ」を送ること。これは2012年4月に2台を送付済。
- ②青年の島の農業従事者のキューバ稲作研究所での研修を行う費用の援助。2012年末から開始予定。この経費をCUBAPON負担で。
- ③草の根無償協力プロジェクト完了時まで、年2回（春と秋）のスポットの技術指導支援を日本から技術者を派遣して行うこと。

CUBAPONはこの取り決めに基づいて、2012年5月、2012年11月、技術支援指導担当者の菊田仁氏（新潟県職員労働組合員）らを派遣してきました。

2012年5月 技術支援報告：松矢文男

昨年のCUBAPONと現地プロジェクトチームとの取り決めによる、稲作技術指導を目的とした訪問を5月4日から12日まで行ってきました。今回は菊田さんと事務局から松矢も同行しました。青年の島に4泊し、プロジェクト対象地区4か所を訪問、各地の状況を視察し稲作従事者と話し合いを行いました。また、昨年訪問できなかったロスパロシオス稲研究所にも行くことができました。

5日夕方、青年の島に入り、チームのメンバーと日系人会、ロスパラシオス稲研究所の指導員の方々の出迎えを受けました。そして、滞在中の行動日程について確認をしました。



翌6日、セリアサンチェス地区のイベントに参加しました。このイベントは研究所員が毎年又は隔年に本島各地域を回って実施しているもので、今回初めて青年の島で開催することになったということでした。

内容は稲作の現況についての研修会、米料理コンテスト、子ども絵画コンテスト、文化交流となっています。

他地区の稲作従事者のバスが遅れ、11時にプログラムを若干変更して始まりました。開会の挨拶の後、子ども達はメリンダ（中食）タイムで、研修会が先に行われました。プロジェクターを使っての説明に熱心にメモをとりながら聞いている稲作従事者もいました。その後、車で5分程度の所にある田圃へ行き、20種の米を比較試験をしている状況を見学しました。残念ながら10日前に島の被害で収穫前の稲穂が食べられてしまったようで結果はよく分かりませんでした。LP（ロスパラシオス）5（番）の品種が病虫害に強く、穂の实りも一番良かったとのことでした。



稲作促進イベント会場で



会場に戻り、料理コンテスト（17品目）の審査に加わりました。台所から料理を作った女性たちがどう評価されるか興味津々で見守っていました。会場には子ども達の絵も掲示されていましたが、それとは別に午前中に子どもたちが絵を描いていて審査済みでした。子どもたちによる米作りをテーマにした絵画展を日本で開催できればいいなと思いました。

全員が集まり表彰式が行われ、私たちも賞品を提供しました。その後寸劇がいくつかあり、最後にプロのピエロによる演劇があり、大人も子どもも一

緒に楽しい一時を過ごしました。



帰りにヘロナから北東6kmのパライソ海岸に海草があるとのことで堆肥として使えるかを見に行きました。家畜も食べないので海岸に放置されたままでしたが、堆肥として使えることが確認できました。これを農場に運ぶ方が必要ですが、支援金から何とかまかなえるのではないかと思います。

7日、シロレンド地区の視察に行き、現地でロスパラシオスの3名と合流。まだ田圃には水が入っていませんでしたが、昨年より作付地を拡大してありました。また、水の取り入れ口をもう1か所増やすとのことでした。ここで使われているポンプは全く問題なし。また、糞を使った堆肥作りも試みていました。田圃に近いところに規模も大きくして設置するのが望ましいと伝えました。すでに種は購入しており、LP5を播く予定とのことでした。

昼食を上川さんに用意してもらって、馬車で北西海岸へ海草等の調査に行きました。浅瀬に有機質の泥があり、堆肥として使えることが分かりましたが、車の通る道がなく今のところ活用することは難しいだろうという結論でした。



8日、宮沢さんも同行して、デマハグア地区の視察。稲の生育状況と水の確認をしました。水源池の水が不足してかなり後退していました。水を取り入れるにはホースの長さが足りないとの指摘を受けました。次の訪問時には持参できたらと思いました。

ここでもLP5の種を播きたいという希望で、堆肥作りにも何とか自分たちで車を用意して取り組みたいとのことでした。またこの地区で使われていたポンプの故障箇所を確認しました。部品の交換や補修にはクバボンが中に入らないで、ムンドバットを通して、現地が直接行った方が今後導入される機械に対してもいいのではないかと私たちの考えを伝えました。

フカロに移動して、湊さん宅で昼食をご馳走になりました。その後原田さん宅にも寄り、希望の種を聞いたところ、フカロでもLP5を希望していました。(LP5はロスパラシオス研究所で開発した品種で、現在キューバの米の約7割を占め、味も良く一般化されているが、1品種は5割ぐらいに抑さえるべく、より良い品種を開発研究中のことでした。)

ヘロナに戻り、プロジェクトチームのハイメ氏と彼の上司のヘスス氏、宮沢さんと今後のプロジェクトの支援について協議を行いました。(支援金の使途及び必要金額、稲の品種、海草などを使った堆肥作り、ポンプの修理等々について検討) その結果、今回は400CUCを支援金として渡しました。

9日、青年の島を発ち、午後ロスパラシオスに到着しました。地域の伝統的な米作り農家の田圃を見学し、意見交換をしました。隣の田圃と見比べるとそこには長年積み重ねてきた経験の違いがあると感じました。

10日、午前中ロスパラシオス研究所を訪問し、研究内容などの詳しい説明を受け、研究圃場を見学しました。新しい品種の開発やベトナム方式による稲栽培の実験などに取り組んでいました。また、青年の島に適した品種の研究と青年の島農家の研修についてもハイメ氏と進めているとのことでした。



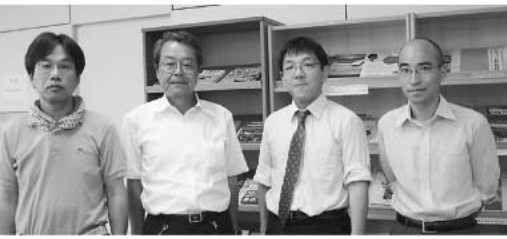
ロスパラシオス研究所にて

最後に、「草の根の無償」が正式に調印された後、機械の導入については農務省の認可が必要ということで、訪問時にはまだ認可されていませんでした。機械類が青年の島に届くのは夏以降になると思われます。

今回は田植え用長靴や鎌を持参しましたが、これからもできる範囲で必要な物資の支援も行っていきたいと思います。今後ともご協力の程よろしくお願いたします。

(2012年5月31日記)







2012クバポン友好訪問団の別行動として、君島さん、小林さんとともに11月19日～22日の間、青年の島訪問の稲作支援関係者を中心に訪問し、取り組み状況を確認してきた。

2009年秋から7回目の訪問となるが、今までの訪問を助けてくれた日系人会の会長の宮沢昇さん、日本人である上河よし子さん、訪問を取り仕切ってくれるエステバンさんから出迎えを受け、訪問中も親切な対応していただいた。この間、支援活動の窓口であった島の大学のハイメ氏はメキシコへ留学中で残念ながらいなかった。

1 2012年度の稲作栽培は終了

支援対象地区は4か所あるが、フカロ地区は雨季の水不足で作付ができなかった。東部はどうしても川や湖がないことからこのようなことが起こりやすい。また、デマハグアは貯水湖の水位が下がり、水が引けず、作付を断念していた。宮沢さんの甥のマルシアさんは家の近くに井戸を掘り、そこで作付するとのことであった。



メヤはキューバの品種であるLP7（栽培期間が短く、収量性が高い品種）を作付けたことで300kg/10aまで増収した。シロ・レドンドもLP5（栽培期間が短く、収量性が高い品種だが、LP7よりやや粘りがある）を作付した結果、収量は、150kg/10aまで増収した。



このような新品種が導入できたのは島の大学が品種比較試験を行った成果である。

2 草の根無償支援が動き出す



在キューバ日本大使館による草の根無償支援は11月中旬にキューバ政府の農林省の許可が出て具体的に機械機器が順次揃えられることになった。日本大使館は祝日で訪問できなかったが、帰国後、大使館担当の上杉さんから連絡があり、窓口のNGOと連絡をとり、早急に取り組みを行うとメールで連絡があった。

大使と島の大学、日本人会が協定を締結してから、約1年経過しているが、キューバでは早い方だという話だ。いずれにしてもこれから具体的に機械等の生産体制が整備される。



3 海草はたい肥代わりの可能性あり

キューバでは肥料が輸入品であり、日本みたいに容易に手に入れることができない。そのため、稲の収量を確保するためには、現地にある有機質を活用し、栄養分の補給が必要である。しかし、日本では肥料として活用できるものが、キューバでは人間・家畜が優先となり、大量に確保することができない。

今まで、もみ殻を精米工場で見つけ、これをたい肥にすることで、栄養供給がかのうとなると思えるが、他に海草が海岸に打ち上げられているのを今年



の5月に見つけ、肥料にならないかと大学に提案した。実は今勤務している佐渡でも一部の農家で活用しているからである。

今回、大学から施用試験結果を報告してもらったが、畑ではあったが、増収効果が認められた。海草は量が大量にあることから活用が期待できる。

4 米粉や木酢液等新たな取り組みを検討

キューバ人は土産に「柿の種」をもっていくと喜んで食べる。米菓なんでも好んで食べるが、キューバでは売っていない。このことから米粉を活用し、米菓を作ることができれば、地産地消と農家の所得向上に結びつくのではないかと考えてきた。今回、上河さん



へ米粉を作るために粉碎機を持っていた。コーヒーミル等もキューバにはあるようだが、上手く粉ができなかったようである。代表者会議でも米粉の本を使って説明し、検閲心を得たことから、今後も米粉の活用を検討するようだ。もう少し、煎餅等米菓生産方法を研究し、次回に向けて、準備していきたい。

また、今までの炭を作るときにでる「木酢液」を活用できないか提案してきたが、まだ、うまくいっていない。現地であるマラプーで炭を作っているので、なんとか「木酢液」を作り、殺菌剤と活用できないか具体的に取組んでいきたい。

5 ポンプホースはキューバに到着

5月にポンプホースを延長したとの要望があり、訪問に合わせてクバボンで購入し、キューバに輸送し、無事キューバに到着したようだ。帰国後、宮沢さんから受け取ったとの連絡があった。なお、故障したとの連絡があったインジェクターの部品あ手に入らず、次回の訪問時に部品を持っていきたい。機械を導入した場合は故障した場合の支援体制が必要である。

6 各地区農業者を交えて会議の実施



クバボンが支援資金の活用内容の中に研修費も含まれているがいままで実績はない。今回、各地区の代表者から集ってもらい、支援内容を検討した結果、キューバ本島の稲作研究機関であるロスパラシオスに研修に行くことでまとめ、12月に行くことになっている。農業者の技術を学ぶ手段として、日本の農家も先進地を視察しおり、大切なことである。

キューバ人の交通費はキューバペソでの支払いなので我々からすれば安い額で済む。

7 相変わらず手に入らない軽油

ポンプを導入する際、話がでた政府からの安価の軽油は手に入らず、一般の軽油を使い、機械を動かさざるを得ない。1L当たり1.2CUC（日本円で100円）と日本と大して変わらない単価となっている。今後、草の根無償支援で各種機械をそろえた場合、燃料費が賄えるか大きな問題となる。輸入品は日本と価格が変わらない。肥料、農薬等も同じである。米の販売額で賄えればよいが、できない場合は他の生産を含めて検討が必要である。



8 青年の島は宝の島

青年の島はスチーブソンの「宝島」のモデルと言われている。いままでも島の各地を見学してきた。



今回、島の特別区の計らいで動植物保護区であるスールに訪問することができた。出入りに軍隊の検査があり、キューバ人もめったに入れないところである。保護区として、人が入っていないことから、非常にきれいな海岸で遊ぶことができたし、原住民が住んでいた洞窟も見ることができた。青年の島まだまだ見ていないところもあり、どんな

資源があるか、今後も探っていきたい。

9 子どもたちに農業の絵を依頼

5月に訪問した際、メヤ地区で子どもたちの稲作風景を絵に描いた行事があった。

今回、6月開催される坂戸のキューバフェスティバル用に農業の絵を描いてもらいたいと4地区に依頼してきた。子どもが関心を持つことは大切である。

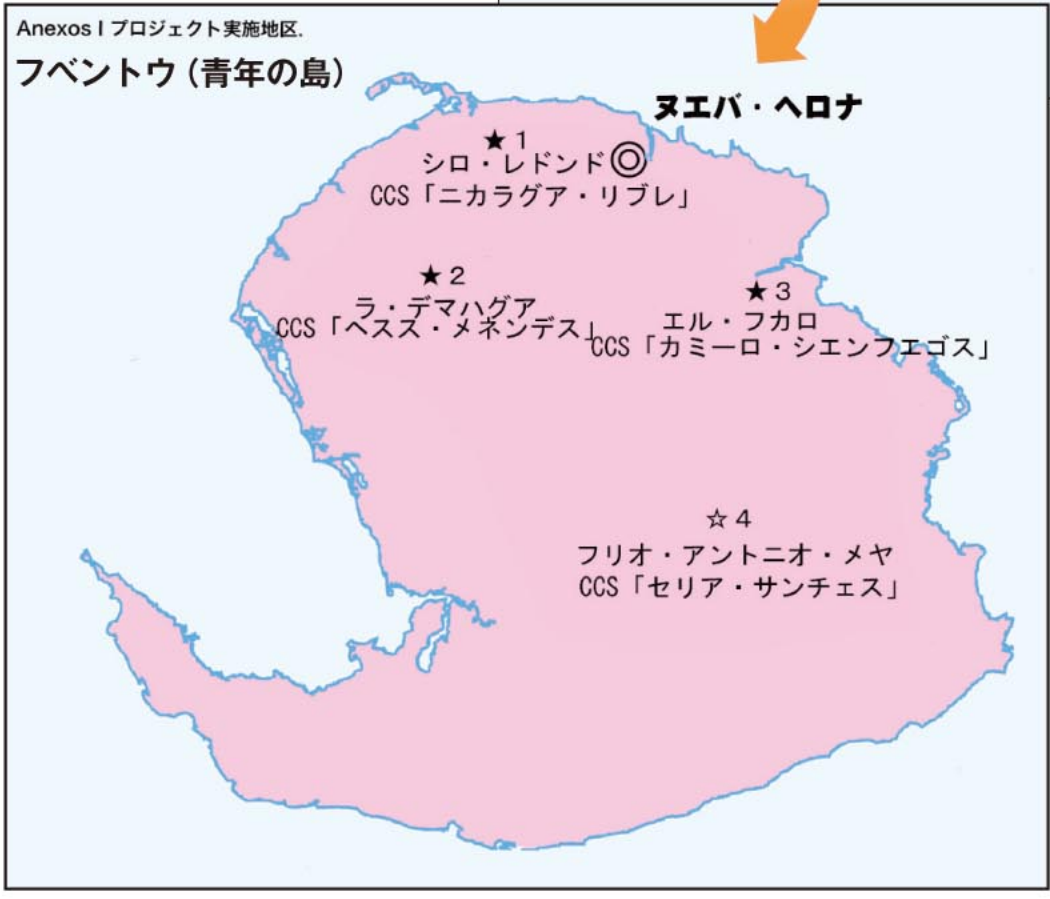


10 最後に

草の根無償支援による機械が揃うことで稲作栽培も本格的になってくる。今後も支援を行いたい。

(2013年1月31日記)





ピナール・デル・リオで去年の島の稲作農家が研修を行う



PORCUBA 米自給支援プロジェクト報告集 vol.3

2013年2月27日 発行

編集—プロジェクト報告委員会

亀山公亮 菊田仁 松矢文男 鎌田篤則

発行—日本キューバ連帯委員会 東京都新宿区山吹町333 辻ビル405

電話—〇三—三三六八—四三三七 ファックス—〇三—三三六八—六〇七九